工学　　研究科　　建設　　専攻　　修士(工学)　　様式

人材養成および教育研究上の目的
建設工学専攻においては、高度で専門的な能力を有し国内外において幅広く活動する社会の器としての人に優しい物的環境の創造に携わる人材を育成することを目的とする。

三つの方針（三つのポリシー）			
学位授与方針 （ディプロマ・ポリシー）		教育課程の編成・実施方針 （カリキュラム・ポリシー）	学生の受け入れ方針 （アドミッション・ポリシー）
＜博士課程前期＞			
工学研究科建設工学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、以下に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士（工学）の学位を授与する。		工学研究科建設工学専攻は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。	工学研究科建設工学専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。
知識・理解	**【学修成果の目標】** 専修する専門分野に関する知識と技術を身につけ、建設工学分野の技術者（建築士を含む）として社会で果たす役割を理解できる。（DP1） **【到達指標】** ・専修する専門分野に関する知識と技術を修得している。（DP1） ・修得した知識と技術が社会でどのように役立つかが説明できる。（DP1）	**【教育課程の編成】** 建築学と社会デザイン工学の2つの専修部門で構成し、特別研究および特別実験・実習から成る主要科目と幅広い専門知識を修得するための特修科目を編成する。 **【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】** 専修と指導教員を自ら選択し、自己の専修に属する教員から少人数制による指導を受け、専門分野の先端的な知識を修得する。 **【学修成果の評価方法】** 単位習得状況により評価する。（DP1） 修士論文および修士設計作品の内容と発表により評価する。（DP1）	**【求める学生像】** 建設工学分野の実務的な仕事に対する調和のとれた専門性を身につけ、国内および海外での高度な企業活動に対応できる高等技術者や建築士を目指す人を主に、加えて学校や企業などの研究機関で建設工学分野の研究・教育に携わることを目指す人を求めている。
技能	**【学修成果の目標】** ・建設工学分野の技術者（建築士を含む）に求められる高度な課題解決のための計画の立案および実行能力を身につける。（DP2） ・研究成果の公表のために必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につける。（DP3） **【到達指標】** ・課題解決のために必要な手段を発見し計画を立案・実行することができる。（DP2） ・研究成果を他者に説明し、異なる考えを持つものとの間で建設的な意見交換ができる。（DP3）	**【教育課程の編成】** 建設工学分野の広範にわたる専門領域に対応した高度な知識や技術を修得するために、専修部門の主要科目に加えて2つの専修部門の複数領域にまたがる特修科目を履修する。 **【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】** 主要科目では指導教員の助言を得て修士論文もしくは修士設計のテーマを設定し、個別指導あるいは少人数のゼミにより研究を遂行する。特修科目では少人数制の授業による議論と発表を通して必要な能力を修得する。 **【学修成果の評価方法】** 修士論文および修士設計作品の内容と発表により評価する。（DP2・DP3） 特修科目の単位修得状況により評価する。（DP2・DP3）	**【入学者選抜の在り方】** 一般入学試験 ・建設工学分野の学習および研究に必要な基礎学力と意欲を有しているかを筆記試験および面接により判定する。 推薦入学試験 ・本専攻で学ぶために必要な基礎学力を有していると認められる福岡大学社会デザイン工学科・建築学科の成績優秀者に対しては，面接試験による推薦入学試験を行う。 社会人入学試験 ・書類審査，小論文，面接による社会入学試験を行う。 留学生入試 ・建設工学分野の学習および研究に必要な基礎学力と意欲を有しているかを筆記試験および面接により判定する。 ・日本語および英語コミュニケーション力については，語学検定試験のスコアにより評価する。
態度・志向性	**【学修成果の目標】** ・建設工学分野の技術者（建築士を含む）としての責任感と倫理観を持って主体的に課題に取り組むことができる。（DP4） ・社会的課題を地球規模の視点で考え、地域に根差して行動する姿勢を持っている。（DP5） **【到達指標】** ・修士論文もしくは修士設計に社会的な問題意識をもって主体的に取り組むことができる。（DP4） ・広い視野で地域の課題を捉えることができる。（DP5）	**【教育課程の編成】** 主要科目における特別研究および特別実験・実習は、今日的な課題と先端的な技術開発による解決方法を主題としている。これらの研究あるいは設計を通して技術者としての責任感と倫理観を身につけるとともに、広い視野で課題を捉える姿勢と主体的に取り組む意欲を身につける。 **【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】** 主要科目および特修科目において個別指導あるいは少人数のゼミにより主体的に修得する。 **【学修成果の評価方法】** 修士論文および修士設計作品の中間発表会および最終発表会で取り組み状況を評価する。（DP4・DP5） 少人数制の特修科目における授業での議論や発表の取り組み状況で評価する。（DP4・DP5）	

工学　研究科　建設　専攻　修士(学術)　様式

人材養成および教育研究上の目的
建設工学専攻においては、高度で専門的な能力を有し国内外において幅広く活動する社会の器としての人に優しい物的環境の創造に携わる人材を育成することを目的とする。

三つの方針（三つのポリシー）			
学位授与方針		教育課程の編成・実施方針	学生の受け入れ方針
＜博士課程前期＞			
工学研究科建設工学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士（学術）の学位を授与する。		工学研究科建設工学専攻は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。	工学研究科建設工学専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。
知識・理解	**【学修成果の目標】** 専修する専門分野と関連する非専修分野の知識と技術を幅広く身につけ、建設工学分野の技術者（建築士を含む）として社会で果たす役割を理解できる。（DP1） **【到達指標】** ・専修する専門分野と関連する非専修分野の知識と技術を修得している。(DP1) ・修得した知識と技術が社会でどのように役立つかが説明できる。(DP1)	**【教育課程の編成】** 建築学と社会デザイン工学の2つの専修部門で構成し、特別研究および特別実験・実習から成る主要科目と幅広い専門知識を修得するための特修科目を編成する。 **【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】** 専修と指導教員を自ら選択し、自己の専修に属する教員に加えて特修科目の多数の教員から少人数制による指導を受け、専門分野の先端的かつ学際的な知識を修得する。 **【学修成果の評価方法】** 単位習得状況により評価する。（DP1） 修士論文および修士設計作品の内容と発表により評価する。（DP1）	**【求める学生像】** 建設工学分野の実務的な仕事に対する調和のとれた専門性を身につけ、国内および海外での高度な企業活動に対応できる高等技術者や建築士を目指す人を主に、加えて学校や企業などの研究機関で建設工学分野の研究・教育に携わることを目指す人を求めている。
技能	**【学修成果の目標】** ・建設工学分野の技術者（建築士を含む）に求められる高度で学際的な課題解決のための計画の立案および実行能力を身につける。（DP2） ・研究成果の公表のために必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につける。（DP3） **【到達指標】** ・学際的な課題解決のために必要な手段を発見し計画を立案・実行することができる。（DP2） ・研究成果を他者に説明し、異なる考えを持つものとの間で建設的な意見交換ができる。（DP3）	**【教育課程の編成】** 建設工学分野の広範にわたる専門領域に対応した高度な知識や技術を修得するために、専修部門の主要科目に加えて2つの専修部門の複数領域にまたがる特修科目を履修する。 **【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】** 主要科目では指導教員の助言を得て修士論文もしくは修士設計の学際的テーマを設定し、個別指導あるいは少人数のゼミにより研究を遂行する。特修科目では少人数制の授業による議論と発表を通して必要な能力を修得する。 **【学修成果の評価方法】** 修士論文および修士設計作品の内容と発表により評価する。（DP2・DP3） 特修科目の単位修得状況により評価する。（DP2・DP3）	**【入学者選抜の在り方】** 一般入学試験 ・建設工学分野の学習および研究に必要な基礎学力と意欲を有しているかを筆記試験および面接により判定する。 推薦入学試験 ・本専攻で学ぶために必要な基礎学力を有していると認められる福岡大学社会デザイン工学科・建築学科の成績優秀者に対しては，面接試験による推薦入学試験を行う。 社会人入学試験 ・書類審査，小論文，面接による社会入学試験を行う。 留学生入試 ・建設工学分野の学習および研究に必要な基礎学力と意欲を有しているかを筆記試験および面接により判定する。 ・日本語および英語コミュニケーション力については，語学検定試験のスコアにより評価する。
態度・志向性	**【学修成果の目標】** ・建設工学分野の技術者（建築士を含む）としての責任感と倫理観を持って主体的に課題に取り組むことができる。（DP4） ・社会的課題を地球規模の視点で考え、地域に根差して行動する姿勢を持っている。（DP5） **【到達指標】** ・修士論文もしくは修士設計に社会的な問題意識をもって主体的に取り組むことができる。（DP4） ・広い視野で地域の課題を捉え	**【教育課程の編成】** 主要科目における特別研究および特別実験・実習は、今日的な課題と先端的な技術開発による解決方法を主題としている。これらの研究あるいは設計を通して技術者としての責任感と倫理観を身につけるとともに、広い視野で課題を捉える姿勢と主体的に取り組む意欲を身につける。 **【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】** 主要科目および特修科目において個別指導あるいは少人数のゼミにより主体的に修得する。 **【学修成果の評価方法】** 修士論文および修士設計作品の中間発表会および最終発表会で取り組み状況を評価する。（DP4・DP5）	